

日 月 年 昭

地位如何ノ問題ニ對シ外務省ノ答解ニ至リ
テハ何モカモ好クナルノ判決ニテ圖賊的存在
ナリト云フベシ大イニ糾断ヲ必要トスベシ
二、次長ノ會議席上ニ於ケル發言或ハ圖海軍
軍務局長ヲ叱咤シ或ハ諒ヲト説キ或ハ
國務大臣ヲ叱咤スル等正ニ必死的ノモノナリ
若シ夫レ決意確定ニ至ラバ是レ次女(坂田)
ノ怒カニ負フ所大ナリト云フベシ

續 報 戰 事 日 誌

第二十卷

日 月 年 昭

一、正ニ山嵐ノ前夜戰軍カ平和ヲ最後ノ決ハ
明日ニ於テ判明スベシ少クモ海軍ノ態度
ハ判明スベシ

各方面(日ヲ費シ腹ヲ決メルニ遊宮々々ナリ
二、午後部長會議夜ニ至ル

即時對米交渉斷念開戰決意ヲ十一月
初頭戰軍發起、今後ノ對米交渉ハ
偽裝外交トスノ結論ナリ

當班各案(自第一案至第七案)ニ對スル意見ヲ附シ
第一案(右案)ヲ以テ絕對安米トシ他各案ニ依ル

場合ハ會議決裂ニ導クベシトノ判決ヲ具
申ス

三 陸軍省案ハ一面戰軍一面外交案ナリ

是レ絶對ニ不可參謀本部ノ第六案ナリ

右ハ局長及石井大佐案ナリ海外ヲ引摺

リ戰軍ヘト誘導スル爲メ政治的合意ヲ

持ツセラルシラカニ案ナリ

四 參謀本部右ニ全面的ニ不同意本格的

作戰準備ト外交両立セズ一本槍ヲ以テ

右ヲ拒不ス

五 佐藤軍務課長參謀本部案ニ一應同

意シ(參謀本部部長會議ニ招致出席

セシメ同調セシメタルモノトス)夏ニ陸軍省

首腦部會議ヲ開ク

右結果ヲ軍務課長返答シ來ル 然ルニ

一言ノ明答モナク明朝大臣總長ト會談

シ其席上ニ速アベシト云フ其真意ハ如何

六 本廳大臣ハ各大臣ヲ個別ニ招致シ意見

ヲ聞クトノコトナリ

七 軍令部ニ打診セルモ何等反應者ナシ